

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400822		
法人名	特定非営利活動法人長寿会		
事業所名	グループホームひまわり21岱明		
所在地	熊本県玉名市岱明町山下1037-3		
自己評価作成日	平成26年9月14日	評価結果市町村受理日	平成26年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成26年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①家族として暮らす中にも専門性を意識した介護を目指します ②ケアプランを中心にケアを行い問題点を共有し、改善の取り組みを速やかに行い、入居者の方が安心して暮せる よう努力しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の中に立つホームは、経年による身体機能低下に臥床中心で生活する入居者とADLの低下も無く過ごす方等2極化してきた状況に、職員は五感を生かし、自然体でさりげない介護の徹底及び異常の早期発見に真摯に取り組んでいる。管理者を中心として意思疎通も良く、風通しの良い関係が即時の業務改善に繋ぎ、専門性が発揮されていることは7年を経て住み替えられた(ADLの低下はあるものの症状の段階の変化も無く送り出せたこと)入居者支援に表出している。外出が難しい状況もある中で、残存能力を生かしたアクティビティや好天には住環境が見直された中庭で過ごしたり、自由に気ままに過ごす方等入居者の特性を深く理解したコミュニケーションや職員の定着率が高いという強みが生かされている。地域の中での基盤は盤石であり、地域住民から優しく見守られ、地域の一員として入居者・職員が普通に、「家族として暮らす」ホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に理念の唱和をし職員が立てた年間目標と共に心にとどめ一日の業務に取り組んでいる	朝礼時唱和と共に法人理念の中でケアに気になる一項目をその日の目標として一日をスタートさせている。法人としての理念で職員のケア規範を示し、ホーム独自の「家族として暮らす」の理念は全職員に浸透し、毎月の職員会議やミニカンファレンス等理念を想起させながら話し合っている。“住み慣れた地域で最期まで安心して暮らせる環境”の形成は重度化の中で穏やかな生活、看取りケアに生かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時や農園の作業時など気軽に声を欠けて頂き地域の行事に参加し近隣との交流も継続している、又災害時の避難場所として当事業所を提供している	自治会総会に出席したり、回覧板の受け渡し等地域の一員として活動している。隣近所からの声かけや野菜の差入れ、地域住民によるゴミ捨てや塀の竹交換等環境整備にも継続して協力を得ている。地域自主防災との訓練や消防署からの提案に緊急通報者として区長も快諾される等地域に好意的に受け入れられたホームである。ホームの行事にも参加され、住民も認知症高齢者の相談に訪問されたり、災害時の避難場所として提供する等ホームのハードや職員の専門性を発揮している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や利用者の面会の方などに認知症や制度の利用の仕方などを伝えている。地域行事に参加することのより認知症を地域の方に広く理解して頂けるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状況報告や、地域交流の報告をし意見交換を行い、お知恵を頂いたりしている。会議録は玄関横に掲示していつでも、どなたでも見て頂けるようにしている	定例化した運営推進会議は防災訓練や家族会総会との合同開催等工夫し、テーマも参加者に声かけしたり提案しながら進行している。行政や地域包括支援センター、区長等メンバー構成も充実し、委員からホーム側が困っていることは無いかな等質問として挙がり、カーブミラーの新設や向き変更等具体的な改善に反映させ、雑談の中から意義を見出し、質の向上に繋げている。外部評価受審に当たり、評価機関の選定や流れ等を説明している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議や行事に参加して頂き交流しておりサービスの向上に繋がっています。災害時の避難場所として福祉センターの利用など説明を受けたりして、活動協力を継続している	運営推進会議や行事、キャラバンメイト時等行政担当者と顔を合わせる多くの機会が協力関係となり、事ある毎の電話連絡等協力関係を築いている。また、認知症応援団としてホームも協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念に基づき入居者の人権が守れるよう常に意識し介護にあたっている、会議研修の中で人権について常に学習し拘束による弊害などを学びより良いケアに繋げている	毎月の職員会議の中で拘束・虐待を事例通じた勉強会を開催し、各々のケアを振り返っている。言葉使いを含め拘束等が起こる前に行動や表情で察知し、気づきあうことをモットーとして全職員が注意喚起している。入居者の帰宅願望に声かけを統一し、管理者は五感を生かした介護、さりげない介護を行うことを職員に指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に学習し正しく理解し意識を持って介護にあたっている、虐待に至らぬように、スタッフの表情、言動、目つき、服装などを早めにキャッチし虐待をしないケアに努めている、職員のストレスチェックも行い虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	その人らしい普通の暮らしが出来る様に権利侵害がないように法的な学びをし、後見人制度についても知識を深める努力をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い理解して頂いている、変更時には速やかに連絡対応をしている疑問点はいつでもすぐに対応して納得して頂いている。ご家族が訪問された時など情報交換を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会議開催の際に意見を頂いております利用者の方には日頃の関わりの中で希望などを聞き、家族の方には来所時に意見や希望の出しやすい雰囲気の間係を心がけています、貴重な意見をより良いサービスにやく立てている	家族の訪問時に状態を説明し、要望等を収集したり、家族会を問題提起の場としており、温かい言葉(ホームへの環境整備やいつもこざいにしてもらってうれしい等)が職員のモチベーションに繋がっている。また、直接言い難い事は公的機関の他、玄関の外にある意見箱や運営推進会議委員及び家族会の世話人を通じて申していただきたいと全家族に説明している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議において、事前に議題について考え 屈託のない意見を出し合っている。職場会 議やケアプラン等の評価時に意見交換を行 い業務改善を行っている	毎朝のカンファレンスや定例会議の中で意見 や提案の基検討している。業務改善や書式 等随時変更する等管理者は職員とのコミュニ ーションを大切に素早く対応し、職員の提案 事項が勤務時間の変更に繋がり、新人職員 も安心してケアが出来る体制に繋げている。 法人運営に関しては全体会議が生かされ、 職員個々の年目標を自己及び管理者評価を 行い個人面接を行っている。管理者と職員と の関係が構築し、定着率の高いホームであ ることも特筆できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	法に基づいた勤務体系、職員の能力、資格 に合った給与体系、年度末の経営報告、処 遇改善もなされている。内外研修参加も積 極的に行っている、個々が免許取得を目標 としている場合等も事故の成長、意欲に繋 がるようサポートしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	法人内の学習会や毎日のケアの中での実 技指導の実践と外部研修への参加で意識、 ケアの向上に繋げている。資格取得に向け ての配慮や、サポートを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	外部研修や、地域密着型サービス連絡会に 参加し、情報、意見交換を行い連携を深め サービスの向上に繋げている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に伴い本人に与える影響を理 解し不安なく過ごして貰うよう、関わりを多く 持ち安心して頂くよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	契約前に不安や相談事はお話を伺い規模 等には出来るだけ添えるようにしています。 家族の立場に立ち受け止める様にしてい る、常に情報交換をおこない安心して頂くよ うにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集に努め御家族にはサービスの情報提供を行いその方に応じたサービス提供が出来る様努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族として暮らすことをテーマにしており、食を共にし、生活を共にして信頼関係づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態報告を定期的に行い、ご利用者にとりより良い状態であるように相談したりしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の仏壇へのお参りや、馴染みの場所などへのドライブなど行っている	家族との墓参りや美容室・、かかりつけ医の継続、昔の学校の仲間の訪問を受ける方、系列デイサービスのイベント等家族の協力を得ながら支援している。	重度化・高齢化に外出の機会は減ったとのことであり、今後も出来る限り家族の協力も得ながら馴染みの人や場所との関係性が途切れないよう継続されることを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様其々に合わせて座る場所も考慮している、職員と一緒に体操や、歌などを歌い、交流の苦手な方が孤立しない工夫をしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所された場合等、お見舞いに出かけている退所された家族の方が野菜を持って来てくださったりしている、その際様子をうかがったりしている		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの関わりの中で希望、要望、を察知したり、話を伺ったり、家族と相談したりして、本人本位に努めている	入居者によっては「部屋でご飯を食べたい」「今日は寝ている」と直接の申し出等意思を持って生活される方もあり、職員はきちんと話を聞くこととしている。会話が難しい方には表情・行動等により把握し、職員同士で話し合い、内容によっては家族に相談しながらサービスに反映させている。	
----	-----	--	---	---	--

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしく支えられるように、各関係者からの情報収集を行い、スタッフ全員が共有できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に応じた生活時間を大切に、その方に合った活動を取り入れながらよいケアが出来るように努めている、主婦だった方には、調理を一緒に、皮むき、や、せんたくたみ等をされ生き生きとされている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者制にしており毎月モニタリングを行いカンファレンスをし、都度都度の変化を早く察知してケアに生かせるプラン作りをしている	担当制として職場会議での話し合いや毎月のモニタリングにより計画の達成度やケアの妥当性を見極め、変化があれば随時計画を再作成し、変化がなければ3ヶ月毎及び介護認定更新時に再作成している。援助内容は具体的で詳細であり、プラン変更は全員が共有し、日々カードックスによりプランを確認しながら記録している。生活日誌は家族との意見交換や医療情報等色分けし、職員の気づき等をプラン作成に生かし、現状維持に向けたプランや理念を反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やケアチェック表を作成し、個々の情報をスタッフ全員が確認できるようにしている、これがプランの見直しに繋がっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	有料老人ホーム、デイサービスなどと連携し、行事に参加したりしている、その時々ニーズに合わせて対応を心がけている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防団や学校、警察、病院などあらゆる地域資源を利用している、利用者の方が地域で安全で豊かな暮らしが出来る様支援している、ふくしまつり等も作品を出展し参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれにかかりつけ医があり、月2回の訪問診療や異常時の受診等も行い健康管理をしており、常勤看護師がおり連携がきちんとなされている	入居前からの馴染みのかかりつけ医を継続される方が多く、中には訪問診療の出来る協力医に変更される方等希望に応じている。主治医のホームへの訪問は入居者ばかりではなく職員にとっても心強く、専門医や検査受診には家族の協力が得られている。職員の五感でのケアは変化を見逃さない観察力となり、看護職員や主治医と連携を図りながら異常の早期発見に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり日常の変化の観察をし、夜勤者からの報告や、申し送りノートを用いた健康管理、観察事項等の情報交換をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は御家族の希望を伺い入院先を検討している、入院時には付き添い、日ごろの状況を詳しく伝え、環境の変化を最小限にし、入院中も面会に出かけ馴染みの関係を保ち、医師との面会も行い連携を図っている退院後も状況に合わせた受け入れ準備を行うようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の看取り介護が必要となった場合は家族主治医施設との連携を図り都度都度看取りについての話し合いを行い、ケアの方向性を検討し介護を行うようにしている、職員も看取り介護を学び、自宅ではない最後の時を共に過ごす事を支援している	本人・家族の希望によって終末期支援が可能であることを説明し、ターミナルケア説明書に沿い主治医を交えた繰り返しの話し合いを実施している。職員間でのケアの統一や勉強会を実施し、家族の希望を第一に医療機関と連携した看取り支援が行われており、重度化にあっても一人にならないように居室の扉を開放し人の気配を感じながらの生活を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時の対応が出来る様に定期的な研修や訓練を行っている応急手当講習会にも参加している緊急時対応マニュアルを作成しており、全スタッフが対応できるように研修、訓練を継続している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている消防署員立会いの下で通報、消火、避難訓練をしている訓練に合わせて防災袋の点検も行っているほか災害については災害マニュアルにて学習している	地震から火災発生を想定した防災訓練には運営推進会議委員や地域の自主防災組織委員も参加しホームの状況を見てもらっている。又、夜勤と宿直者による訓練も実施し、コンセント類の埃点検・備蓄品・防災袋の点検等有事に備えた意識付けがされている。自動通報機の連絡網には区長の協力もあり、地域の避難場所の確認やいざという時にはホームの開放等についても話し合いがされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護や接遇マナーは年間研修の中で定期的に学んでいる、法的に守られているものであり、精神的身体的に屈辱的な結果にならないように常に心がけている、入居者の方には姓での声かけや、排泄の誘導や汚染時などさりげなく声かけている	理念の第一項目に「尊厳と権利の保証」を掲げ、入居者の心を大切に人生の大先輩として敬いの気持ちを持った対応に努めている。接遇マニュアルを掲示したり勉強会での共有を図り、職員は言葉遣いなど自ら考えるケアを実践し、気になる時はお互いに注意喚起合っている。又、家族のように暮らしながらも誇りや羞恥心へ心を配り、トイレ誘導時等はプライバシーを損ねないよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や行事参加等は声掛けをし自己決定をして頂いている、拒否などあった場合は時間を空け再度の声掛けをしたりしている、寄り添う時間の中で自然に表出出来る様心がけそれをくみ取れるよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように職員間では意識して個別対応に心がけている、起床や就寝の時間、入浴の時間等はその方の希望に合わせて対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣等の声かけはするが、何を着るかは本人にお任せしている訪問美容の利用時髪の長さの希望等だされたり、好きな時にお化粧したりされる時の援助をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けはその日の体調を見ながらお願いしている、食事を楽しんでいただく為に一緒に盛り付けなどをしている	入居者の好みを取り入れ季節の食材を生かした献立を作成し、ご飯の炊ける匂いやホットプレートを利用した目の前での調理で五感を刺激しながら食への意欲を引き出している。入居者も野菜の皮むきや茶碗洗い等に参加し、おせち料理や節句のお寿司等イベント食も楽しんでいる。個々に応じた食事形態であり職員の介助や見守りでの支援となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回体重測定を行い増減や体調の変化などを観察し、又検査結果やDrの指示等で栄養や水分のバランスを考えている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている、動ける方は洗面所にてケアし、そうでない方はテーブル席にて介助している、定期的に義歯洗浄も行い、うがいが必要な方はブラッシングのあとガーゼなどで水分のふき取りを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人様に合わせた声かけをし羞恥心に配慮しながら誘導している、オムツ使用者は出来るだけトイレの便座に座って頂き自然排泄が出来る様に誘導声かけをしている	排泄チェックでパターンを把握したり、職員の観察力を生かしトイレに誘導し気持ち良い排泄に努めている。又、状況に応じた排泄用品を検討し、夜間時のポータブル使用や安眠の為に定時のパット交換等、プランに組み入れ個々の状態に合わせ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は食物繊維の多いものなどバランスを考えて提供し、水分補給や牛乳を飲んでいただいたりしている、毎日の体操や出来る限り歩いたりして頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	昼から夕方にかけて好きな時に入って頂くようにしている又男性スタッフがダメな方には女性スタッフが対応したりここに沿った対応をしている	午後を中心に入居者の希望に沿った時間や同性介助で対応しながら、ゆっくりとした入浴を支援している。臥床がちの方には主治医の指示の下清拭での対応や、浴槽に入る時は二人介助で安全に配慮している。拒否に対しては時間を置いたり職員が交代して声かけし、清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて自室で休んでいたたり、ホールのソファで休まれたり、ご自分に合う休息の仕方でゆっくりくつろげる支援をしている夜は入眠を促すように環境を整え声のトーンを下げ照明を少し暗くしたりと配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	くすり情報を全員分ファイルに閉じ、病名、効能、副作用が一目でわかるようにして安全に配慮している、下剤については体調を確認して調整している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や体調に合わせての活動をして頂いている、野菜の皮むき、皿拭き、洗濯物干し、たたみ、など負担なく出来る事を支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出困難な方もおられるが季節に合った花見や、慰問見学に出かけられるよう支援している買い物や、ドライブなど地域との触れ合いが出来る様努めている	重度化により全員で出かける事は難しくなってきたが、初詣や桜の花見等季節の行事にはできる限り出かけるように努め、菜園の収穫や中庭でのお茶等ホームに居ながら外気に触れる機会を持っている。又、併設のディサービスの行事や地域の祭り等に少人数で参加したり、家族の協力での外出等が行われている。	日常的な外出も難しくなってきた中、気分転換を図る様々に努めており、今後も入居者の希望や家族の協力を得、継続した外出の支援に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があった場合家族の意向を伺い少額のお金を持って頂いている(1000円程度)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使いいつでも連絡できるようにしている又電話の取り次ぎはいつでも行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるように中庭の円形花壇に植え木を配し共有のホールには花を飾ったり、折々の写真を飾ったり、皆さんが作られた作品を飾ったり工夫している	オール電化や中庭・外回りの改修が行われ、床暖が施されたりリビングでの団欒や中庭での外気浴など居心地良い環境を作っている。庭に植えられた季節の木々や花々に季節の移ろいを感じられ、観葉植物や廊下の椅子・ホールに飾られた写真や入居者作品も温かな雰囲気を出している。静かな環境の中中小まめな空調管理や清掃で快適な共用空間となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事などは自分の居場所がありくつろいでおられる、席もお話の合う方が隣であったり、他の方とのお話などは自由に、ソファに座ったりと思い思いに過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で愛用されていて物を持ってこられたり、ご家族の写真を飾られたり、好きな本を読まれたりと自由に楽しまれている	使い慣れた品物の持ち込みを依頼し、家具や本人にとって愛着のある書籍等が持ち込まれている。畳やフローリングの部屋となっており、ベッドで就寝したり、入居者自身で布団を準備したりと一人ひとりに合わせた居室となっている。写真やカレンダー等が飾られ自由に居室で過ごされる方等自分の部屋として使用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札を下げわかりやすく表示している、共有部分には不要の物を置かず、施設内は手すりを設置して安全面には気を付けている		